

第68号

酪農

とちぎ



1 ページ 表紙
2 ページ 通常総会
3 ページ 乳質共励会、環境美化コンクール表彰
4 ページ 全国酪農青年女性酪農発表大会
4～5 ページ 米国ルーサン現地レポート
6 ページ 乳牛の暑熱対策について
7 ページ まだ間に合う熱中症対策
8 ページ バルク乳スクリーニングテストの取組み

9 ページ 東西南北
10～11 ページ 部課だより
12 ページ 理事会だより、市場成績



www.
milkjapan.
net



MILK
JAPAN
牛乳が日本を
元気にする。



第11回通常総会 開催



6月29日、高根沢町民ホールにおいて栃木県農政畜産振興課杉本課長を来賓に迎え第11回通常総会が開催されました。

開会に先立ち菊池組合長より23年度は東日本大震災に伴う原発事故の放射能汚染が生活環境や酪農生産現場を脅かす中、産地の命運をかけた生乳等農畜産物の安全確保に取り組んだ1年であったとし、組合員の良質乳生産に対する経営努力に敬意と感謝の言葉が述べられました。

また、放射性物質の安全基準見直しに伴い牛用飼料の暫定許容値

が改定され、収穫牧草の利用自粛に伴う代替飼料の供給や損害賠償請求支援等、組合は引き続き酪農の安定向上に向けて万全の対応を図っていくと挨拶をされました。



議長（左）中山茂廣氏（右）田代誠氏

議長団には田代誠氏（那須塩原市）中山茂廣氏（那須烏山市）が選任され、議事を進行して頂きました。



議案

- 第一号議案 平成23年度事業報告及び剰余金処分案について
 - 第二号議案 平成24年度事業計画の設定について
 - 第三号議案 平成24年度賦課金の額、賦課方法、徴収時期及び徴収方法について
 - 第四号議案 平成24年度理事及び監事の報酬について
 - 第五号議案 ㈱酪農とちぎアグリサポートの設立に係る発起人及び出資について
- 全議案とも賛成多数で可決承認されました。

また、「TPP交渉参加阻止実現に向けた国民運動の展開に関する特別決議」についても満場一致にて承認されました。

当日の出席状況

| | |
|--------|------|
| 組合員数 | 610名 |
| 本人出席数 | 154名 |
| 代理人出席数 | 1名 |
| 書面議決 | 399名 |

主な質疑・意見要望事項

- ① 総会の開催地について
- ② TPP交渉参加問題について
- ③ 人件費について
- ④ アグリサポート料金体系について



第1回環境整備・美化コンクール表彰者名簿

| 表彰区分 | 支所名 | 組 合 員 名 | 表彰区分 | 支所名 | 組 合 員 名 |
|-------|---------|---------------|-------------|-------|-----------------|
| 優 秀 賞 | 那須高原 | 桃 井 一 嘉 | 優 秀 賞 | 〃 | (有) 那須高原今牧場 |
| | 〃 | 伊 藤 高 行 | | 〃 | 石 塚 聡 雄 |
| | 〃 | 佐 藤 栄 昭 | | 〃 | 長 島 衆 雄 |
| | 〃 | 石 川 正 嗣 | | 〃 | 皆 川 悦 郎 |
| | 〃 | 間 宮 祐 一 | | 宇 都 宮 | 駒 場 久 介 |
| | 〃 | 利根川 晟 瞳 | | 〃 | 中 山 真 介 |
| | 〃 | 菊 地 雄 雄 | | 〃 | 加 藤 操 定 |
| | 〃 | 杉 本 茂 央 | | 〃 | 黒 尾 芳 定 |
| | 〃 | 加 藤 拓 也 | | 〃 | (有) マウントグリーン牧場 |
| | 〃 | 星 民 也 徳 | | 〃 | 大 柿 彰 吾 |
| | 〃 | 桜 井 和 夫 | | 〃 | 金 田 修 一 |
| | 〃 | 関 正 夫 | | 〃 | 仲 山 日出男 |
| | 〃 | (有) ウェルシーファーム | | 県 南 | 國 母 孝 至 |
| | 〃 | 斉 藤 拓 己 | | 〃 | コージーファーム(株) |
| | 〃 | 菊 地 勇 史 | | 〃 | 柳 憲 一 |
| | 〃 | 岡 田 建 二 | | 〃 | (株) ジェイイーティファーム |
| | 〃 | 熊 谷 貞 章 | | 〃 | (有) 黒 崎 乳 業 |
| | 〃 | 斎 藤 一 郎 | | 〃 | 増 山 清 樹 |
| 〃 | 八木沢 美佐雄 | 〃 | (有) 岡 田 牧 場 | | |
| 〃 | | 〃 | 羽 石 智 昭 | | |

通常総会議案の審議に先立ち、乳質共励会並びに、環境整備・美化コンクールの表彰が行われました。受賞された方々に敬意を表し、お祝い申し上げます。

第10回乳質共励会表彰

第10回乳質共励会表彰者名簿

| 表彰区分 | 支所名 | 組 合 員 名 | 連続賞 | 県表彰 |
|---------|---------|---------|------|-------|
| 最 優 秀 賞 | 那須高原 | 井 上 徹 男 | 5年連続 | 県知事賞 |
| | 宇都宮 | 小 口 誠 一 | | 県知事賞 |
| 優 秀 賞 | 〃 | 山 本 修 一 | 4年連続 | 農政部長賞 |
| | 那須高原 | 田 代 和 美 | | |
| | 〃 | 人 見 浩 身 | | |
| | 宇都宮 | 平 野 修 久 | 3年連続 | |
| | 〃 | 駒 場 憲 一 | | |
| | 県 南 | 柳 沢 琢 磨 | | |
| | 〃 | 伊 瀬 良 一 | | |
| | 那須高原 | 猪 瀬 透 雄 | | |
| 県 南 | 館 野 俊 雄 | 優良賞 | | |
| 〃 | 加 藤 誠 元 | | | |
| 那須高原 | 田 代 栄 昭 | | | |
| 〃 | 室 井 順 一 | | | |
| 〃 | 佐 藤 文 男 | | | |
| 県 南 | 山 口 克 己 | | | |
| 那須高原 | 中 島 誠 浩 | | | |
| 〃 | 木 村 秀 夫 | | | |
| 〃 | 後 藤 浩 夫 | | | |
| 〃 | 小 針 源 治 | | | |
| 宇都宮 | 黒 羽 栄 雄 | | | |
| 〃 | 羽 田 彦 彦 | | | |
| 〃 | 小 林 幸 彦 | | | |
| 〃 | 松 本 市 郎 | | | |
| 県 南 | 石 川 忠 夫 | | | |
| 〃 | 井 沢 修 由 | | | |
| 那須高原 | 人 見 拓 央 | | | |
| 〃 | 加 藤 義 一 | | | |
| 〃 | 森 箸 稔 | | | |
| 宇都宮 | 鷹 箸 稔 | | | |



県知事賞受賞 小口氏



県知事賞受賞 井上氏



受賞者の方々



第41回全国酪農発表大会



石川文子さん

全国酪農
青年女性会
議及び全酪
連主催によ
る第41回全
国酪農発表

大会が去る7月12～13日に、約600名の酪農家及び関係者が参加し、神戸国際会議場において開催されました。一昨年は口蹄疫で、昨年は東日本大震災の影響で中止となったため、同発表大会は3年振りの開催となりました。

経営発表部門で最優秀賞である農林水産大臣賞を受賞したのは、北海道の塩野谷さんで、演題は「次世代放牧への挑戦〜放牧で高泌乳牛を健康に飼う」でありました。塩野谷さんは平成11年から放牧に取り組み、土壌管理の徹底による放牧地の管理と良質な粗飼料生産に励み、経産牛1頭当り1万キロを達成・維持していることなどが評価されました。放牧地の施肥管理は、土壌微生物の活性化を考慮し、化成肥料は極力施用しない、除草剤等の農薬は一切散布しない管理を行っています。また、デントコーンの通年給与を行うこ

とで、濃厚飼料の給与量を削減しつつ高泌乳を維持していることも評価されました。

意見・体験発表部門では、那須町の石川文子さんが「憧れの『うしやさん』になりました!」と題して、北海道や那須での実習経験の後「うしやさんのお嫁さん」になったこと、酪農に携わる女性で構成する「COMBELLE」の紹介などを発表されました。惜しくも最優秀賞には選ばれませんでしたでしたが、「牛が好きだ」という思いと、夢を追いかける情熱」は高く評価されました。これからも、酪農に携わる女性の仲間作りを続け、酪農の知識を高め合い女性が輝くことで、旦那さんも牛達も、さらには酪農界全体を幸せにしてみたいと思えます。

全国大会へは数多くの酪友の方に参加・応援していただき、誠にありがとうございました。



米国ワシントン州産ルーサン1番刈現地レポート

那須高原支所 業務推進課長

相馬 達夫

7月4日～10日までの7日間、米国ワシントン州コロンビアベースンへ本年度産ルーサン1番刈の現地検品に全酪連担当者と同行する機会が得られましたので以下に報告致します。

成田を4日夕方出発し、現地時間同日の午前8時に到着するといふ一日得たような気分を味わいながらの渡米となりました。

ルーサン一大産地のワシントン州コロンビアベースンは米国の北西部に位置し、もともと不毛の土地をコロンビア川からの豊富な灌漑用水を利用し現在では農作物生



産地となっております。

コロンビアベースンは大陸を東西に走る国道90号線の周辺を中ベースン、それをさみ南ベースン、北ベースンに分けられます。2011年度産(昨年)ルーサンはベースン全体が雨当たりで全滅、若しくはそれを避けたものは大幅な刈遅れとなり分析値の低いものとなりました。その中でも自社ファームを持つサプライヤーの畑が局地的・奇跡的に雨に当たらなかつた良品を中心に検品しました。

また昨年度産の背景として、米酪農家の買付意欲が旺盛、それに加え中国・UAE(アラブ首長国連邦)の買付が盛んであったた



コロンビア川



め品薄感に拍車をかける厳しい状況の1年となりました。



コロンビア川からの灌漑用水

今年の状況は、南ベースンで収穫中に2回以上のまとまった雨に当たった圃場が多く、60〜70%が雨当たり、中・北ベースンで20%が軽い雨当たり、20%が酷い雨当たり、残り60%が被害を避けて収穫されましたが、適期に刈れず刈遅れ気味となったスタック（収穫された乾草の山）も多い状況です。コロンビアベースン全体で60%程度の1番刈りが被害を受けたといわれていて、品質については雨当たりが多かった昨年や一昨年と比較すると状況は悪くはないが、例年と比較すると平均点以下となっております。また米国内酪農家の状況は乳価が低迷している事から、

昨年のような購買意欲はなく動きは低調ですが、中国・UAEの購買意欲はさらに旺盛となっております。（近い将来米国におけるルーサンのシェアは両国に抜かれJAPANS No.1（日本は一番）からJAPAN WASS No.1（日本は一番だった）と過去形になる）。

また今まで日本向け需要が多かった3タイプ（コンパクトベールの原料草）は天候の影響や生産効率を考えて、品質や雨当たりを気にしない国内向けや中国・UAEなど、どこにでも向けられるBIGベールの形状になってきて3タイプの原料草は絶滅危惧種



のような状態になっております。

産地ごとの状況は、南ベースンの茎質はしっかりして

気味で葉付きが非常に悪く葉崩れも目立つ。中・北ベースンは逆に茎細ではあるが葉付きはしっかりしている。（南ベースンでは2番刈は終了し、中ベースンは今2番刈真っ最中であるが単収は非常に低い模様）。

全体的に見て米国西海岸は春先冷涼な気候が続いたため単収は低く、昨年と比較すると1番刈と称する品物は多いようですが、DRYで茎細、雨を避けて刈遅れた品物が多く見受けられました。

またコロンビアベースン・エレンズバーグはチモシーの産地でもあり、今年の作柄状況はあまり芳しくない状況です。チモシーは現在刈取の真っ最中であり、私が検品に行った一週間前にかかりの量

の雨が続いた模様。雨当たりや雨を避けての刈遅れがかなりあり、良品（デリーリープレミアム以上）は少なそうであり、刈取終了後確認作業が行われますが、残念ながら価格も上昇しそうな状況であります。

その他現地に行き感じたことは、米国滞在中のほんのわずかな間にも、今年度産のトウモロコシがDRY予測で下方修正されたとの連絡が入ると、今後（来年以降）の作付をどうするか敏感に反応しており、間違いなく産地ではビジネスとして考えているようでした。

中国・UAEの台頭、3タイプベールスタックの減少等、米国の意識が日本からどんどん離れてきており、今後は中国・UAEと対等にビジネスを進められるように「チーム・ジャパン」として関係各位と連携を密にとり米国サプラーヤーと対峙していかなければならないと思います。そんなことを感じながら現地時間9日午後シアトル空港を後にし、日本時間の10日夕方に到着しました。行きに感じた「得した感」は逆に1日「損した感」に変わったのは言うまでもありません。





暑熱対策について

暑い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。今年も昨年一昨年に続き、猛暑の様相です。乳牛は気温22℃を超えたあたりから暑熱ストレスを受けるといわれています。7月～9月終わりころまでは暑熱対策が必須です。

～暑熱ストレスを受けるとどうなる？～

○呼吸数の増加、熱中症

まず、呼吸数が増加します。1分間に50回～60回を超えるようであれば暑熱ストレスを受けていると判断してよいでしょう。

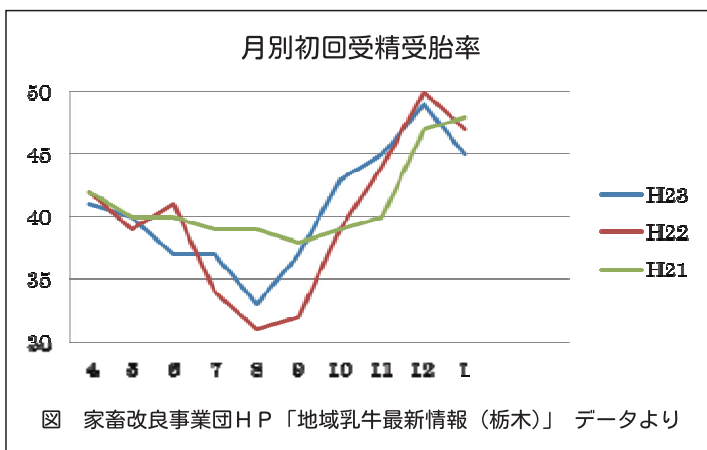
さらにひどくなると今度は熱中症になります。口を開けてよだれを流し、1分間に100回以上の速い呼吸をします。分娩直後や乳房炎、蹄病の牛が熱中症になりやすいので要注意です。

○乾物摂取量（DMI）の低下、それによる乳量の低下

DMIが1kg減ると乳量は2kg低下するといわれています。

○繁殖成績の低下

排卵後2日～3日の卵子が暑熱ストレスを受けると受胎率が低下します。さらにDMIの低下が重なり散々な結果に。（右図）



～暑熱ストレスの対策は？～

○畜舎の換気・送風、散水（細霧）を効果的に。

窓を外すなどして換気量を最大にしましょう。大型扇風機を使用する場合には、「風が牛舎を走り抜ける」よう効果的に風を送りましょう。もしくはトンネル換気方式も有効です。風を牛に直接当てる場合には、発汗の多い「首からき甲部」に当てると効果的です。

○新鮮な水をいつでも十分に飲めるようにしましょう。

ウォーターカップ、水槽をこまめに掃除し、吐水量を十分に確保しましょう。「飲みたい時に飲みたい量を飲める」環境を整えましょう。

○良質な粗飼料を給与しましょう。

粗悪で消化の遅い粗飼料はルーメンでの発酵熱が一層高まり、牛が夏場に草を食べない原因の一つになっております。飼槽は清潔に保ち、エサの掃き寄せ回数を増やすなどの工夫も必要です（涼しい時間の掃き寄せは特に効果的です）。

暑熱の期間はほんの数ヶ月ですが、ここをうまく乗り切るかどうかで経営に大きな違いがあらわれます。暑熱対策に取り組み、牛の健康と生乳生産量を確保しましょう！



「まだ間に合う熱中症対策！」

今年で3年続きの猛暑となり、乳牛はもとより私たち人もこの暑さで体力の限界に来ているものと察します。中には夏前から、信州大学医学部の能勢博教授が提唱している「ややきつめの運動+牛乳」を実践し、暑さに強い身体づくりをした方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかしこの炎天下、速足でのウォーキングなど「ややきつめの運動」はかえって熱中症を引き起こしかねません。そこで涼しい時間帯にインターバル速歩トレーニング（ゆっくり歩き3分、速歩3分を繰り返す）を15～30分（もしくは速歩15分）行い、その後コップ1杯、若い人であれば2～3杯の牛乳を飲むと強い身体に成るそうです。

能勢教授が言うには、若年層を対象にやや暑い環境（気温30度、相対湿度50%）で、「ややきつい運動」を1日30～60分、5～10日間繰り返すと血液量が200ミリリットル増加するとのこと。さらにこの運動後30分以内に糖質30g、たんぱく質20gを含む乳製品のような食品を摂取するとその効果が倍増し、血液量増加に比例して皮膚血流量、発汗能が改善されたとのこと。65歳以上の高齢者に同じような実験を試みたところ、「ややきつい運動」だけでは血液量は増加せず、運動後に糖質15g、たんぱく質10gを含む食品を摂取して貰うと8週間後に血液量が200ミリリットル増加し、それに比例して体温調節機能が改善したとのことでした。

これらのことから、比較的短期間の暑熱馴化のためには、年齢を問わず、「運動」の後に牛乳等の糖質、たんぱく質を含む牛乳乳製品を摂取することが効果があるようです。ただ運動の最中には電解質の水分補給としてスポーツドリンクがよく、その後に牛乳を補給した方が熱中症のリスクは少なくなるとのことでした。

熱中症とは、生活習慣病の延長線上に存在する疾患であり、日頃からその予防を心掛ければ、おのずから熱中症も予防できるとのこと。残暑に向け、日頃の健康管理に留意しこの夏を乗りきりましょう。



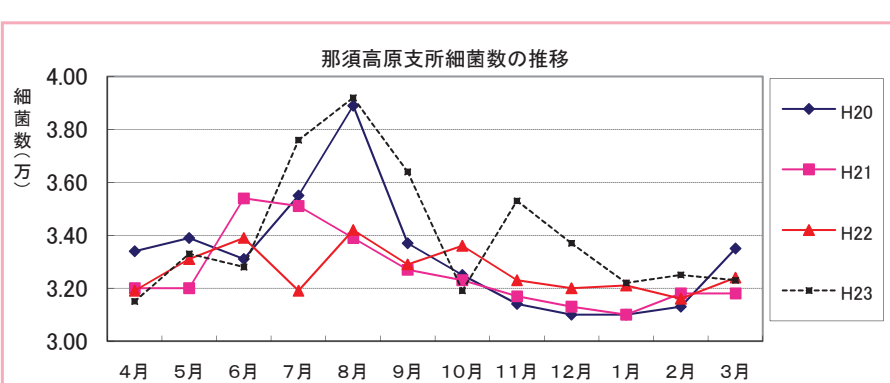
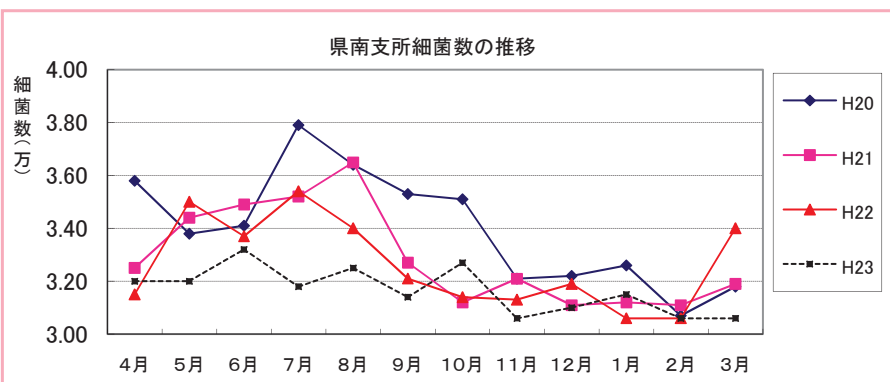
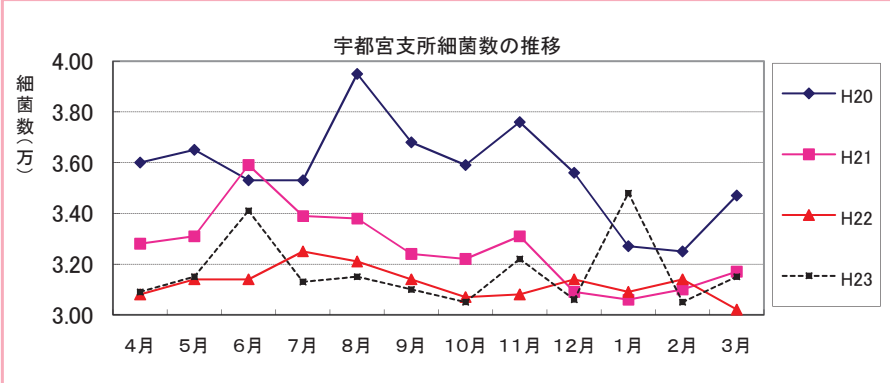
バルク乳スクリーニングテストの 地域における取組みについて

乳房炎防除事業の一環として、平成18年度からバルク乳スクリーニングテストを取り入れてきました。当初は希望する方（個人）や一部の支部単位でのスタートでした。平成21年度には、宇都宮支所の3地域酪農組合と県南支所の2地域酪農組合での年2回の検査が始まり、現在もほぼ全戸において実施されています。那須高原支所においては、開始時期は同じですが、戸数が多いことから支部中心で実施しており、平成22年度以降本格的に年2回の検査が始まり、昨年度は12支部中5支部で年2回実施されるようになりました。

下のグラフは、3支所の過去4年間の細菌数の推移です。宇都宮支所においては21年度に明らかに減少し、その後も低く推移しています。県南支所についても同様に年々減少して年間を通して安定してきました。那須高原支所については、21・22年度と改善傾向が見られましたが、昨年度は特に、暑熱時期に増加しています。当初は、黄色ブドウ球菌対策を中心に乳房炎防除を進めてきましたが、バルク乳スクリーニングテストを行うことにより、細菌数に対する意識が高まってきました。

生菌数増加の要因は「細菌混入」と「細菌増殖」です。「細菌混入」は搾乳時のユニットからの吸い込み、ミルカー・バルククーラーの洗浄不良によって起こります。また、「細菌増殖」は冷却不良によって起こります。生菌数増加を抑えるポイントとしては衛生的な搾乳手順、ミルカー・バルククーラーの正しい洗浄、バルククーラーの適正な冷却能力です。これらのことから、特に生菌数のランクに注目して指導・改善することにより、暑熱時期においても細菌数が大幅に減少

してきました。今後は、那須高原支所における年2回の検査が定着するよう支援して、更にバルク乳スクリーニングテストやラクトコーダを有効活用して、搾乳手順や搾乳機器および環境の改善を実施し、組合全体の乳質向上に努めていきたいと思っております。



東西南北

那須高原支所

平成24年度支所事業について

6月18日、那須高原支所にて支所活動推進協議会（会長 白井勉氏）が開催され以下の事業について決定致しました。

〈支所事業計画〉

- 6月 花の苗配付
インパチェンス、サルビア、ベコニアを配付し、牛舎環境美化に努めました。
- 8月7日 全体交流会
組合員間の親睦交流を深めるため、那須共同利用模範牧場にて野外パーティー（バーベキュー、お楽しみ抽選会等）を開催します。
- 11月 全体研修会（講演会）
- 2月 ボーリング大会

宇都宮支所

平成24年度支所事業について

7月4日、宇都宮支所にて支所

活動推進協議会（会長小林幸雄氏）が開催され以下の事業について決定致しました。

〈支所事業計画〉

- 8月22日 全体交流会
組合員間の親睦交流を深めるため、支所前広場にてバーベキュー、お楽しみ抽選会等を開催します。
- 11月 花の苗配付
パンジーとビオラを配付し、牛舎環境美化に努めます。
- 12月上旬 酪農セミナー

女性会塩谷支部研修会開催

女性会塩谷支部（仲山久美子支部長）は、6月26日に足利市内にある「NPO法人足利水土木探偵団エコサロン」において、【エコ布ぞうり作り】を体験して参りました。【エコ布ぞうり】とは、「もったいない精神」に基づき、同サロン近くの繊維工場から出る、廃材として廃棄されていた布の端切れを再利用し、ぞうりに生まれ変わらせたものです。新聞等各種マスコミで取り上げられるなど大盛況の講習会です。

今回は、このような環境にやさしい講習会の情報を得て、研修先

に選定しました。13名の参加者皆さん、初めてのぞうり作りで悪戦苦闘し、特に編み込みの仕方が難しかったようでしたが、どうにか2時間程度で完成することができました。完成したぞうりはもちろんのこと、販売されていたぞうりを家族へのお土産として購入されました。機会がありましたら皆さんもぜひ体験してみてください。



県南支所

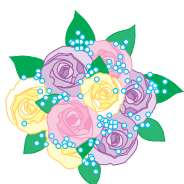
平成24年度支所事業について

7月4日、県南支所にて支所活動推進協議会（会長 杉野昇氏）

が開催され以下の事業について決定致しました。

〈支所事業計画〉

- 7月下旬～8月 全体研修会
演題 バルクスクリーニング検査結果に基づく、地域の傾向と今後の対策等について
講師 エムズ・デーリィ・ラボ
- 11月 花の苗配付
パンジーとビオラを配付し、環境美化に努めます。
- 12月4日 全体交流会
組合員間の親睦交流を深めるため、バーベキュー、お楽しみ抽選会等を開催します。
- 年度内随時 税務申告学習会
組合員の根本壽一氏（ソリマチ農業ソフト認定アドバイザー）と石川明氏の両名が、昨年に引き続き記帳指導及び青色申告決算書の作成指導を行います。



部課だより

生乳販売課

6月度の組合生乳生産量は、昨年同月乳量と比較し106.9%（1万7715t）と、8ヶ月連続し前年を上回る生産となりました。また、第1四半期の受入乳量は、那須高原支所3万2468t（前年比105.7%）宇都宮支所8365t（前年比107.9%）、県南支所1万3871t（前年比107.2%）、合計で5万4703t（前年比106.4%）となり、前年を大きく上回る状況です。

6月の出荷者数は526戸（前年同月より7戸減）、その内、学校・公共団体4戸でした。

6月の関東生乳販連内の用途別販売数量の内訳につきましては、飲用牛乳向け処理量が前年比98.8%となり、幾分回復が見られるものの前年割れの状況が続いております。また、累計受託乳量は30万3265t（前年比103.4%）となり、昨年度の補助事業（栃木・

茨城）による導入牛の効果が持続しております。しかしながら、飲用牛乳向けの販売量は前年度の値まで回復しておらず、厳しい状況が続いております。現在、「熱中症対策にも牛乳を…」等のPRを行い、拡売に向けた運動を展開しております。

尚、組合の平成24年度の生産・乳質の推移は、下表のとおりとなっております。

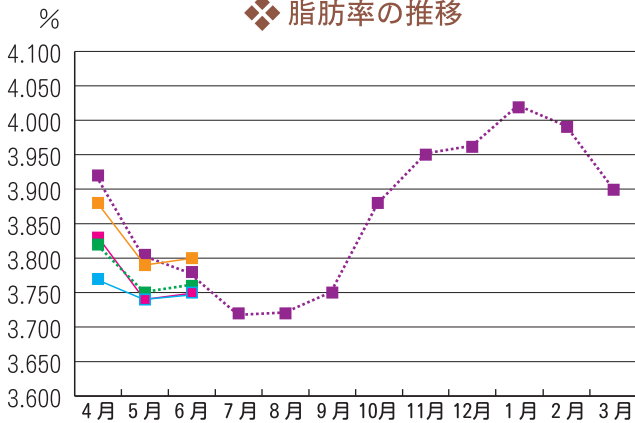
業務部

7月1日現在での乳牛飼養動態調査結果が取り纏められましたので以下のとおり報告します。

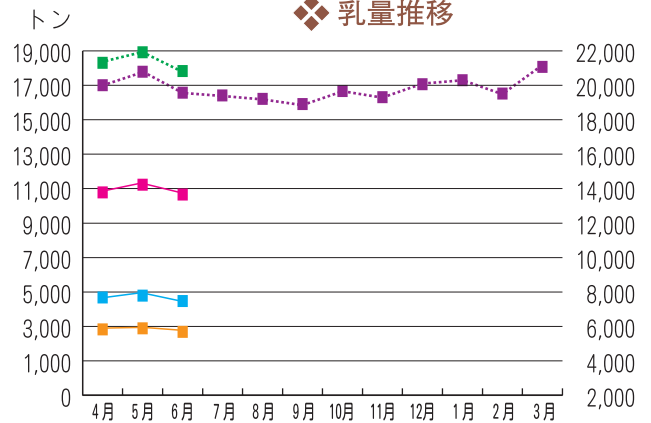
1 出荷者戸数について

平成23年7月調査（以下前年調査）と比較すると酪農中止は7戸（団体公共を除く）と前年度調査時に比べ20戸減と大幅に縮小した。7戸の廃業理由は、高齢や他産業への転業4戸、病気療養3戸となっている。前年比1.3%減の522戸に止まった。なお、酪農中止者の前年調査時の飼養頭数は、81頭であった。

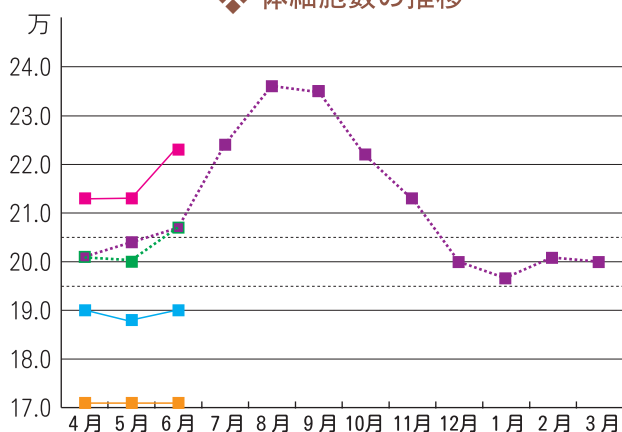
◆ 脂肪率の推移



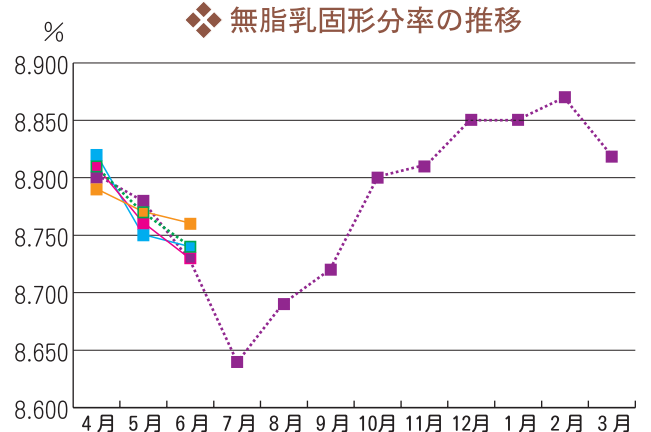
◆ 乳量推移



◆ 体細胞数の推移

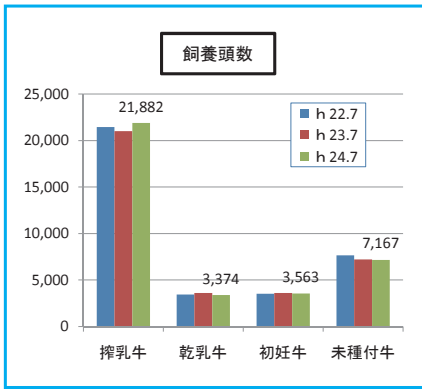


◆ 無脂乳固形分率の推移



2 飼養頭数について

団体を除く総飼養頭数は、前年調査より542頭多い前年比1.5%増の3万5986頭であった。内訳は、経産牛は前年7月比2.6%増加し、2万5256頭、自家育成牛は前年比0.9%増加し、8440頭、外部預託牛は前年比7.6%減少し、2290頭である。また、1戸平均の飼養頭数は1.9頭増加し、68.9頭となり1戸当たり飼養頭数規模は若干ではあるが前年に引き続き増加した。経産牛のうち、搾乳牛の比率は4.2%増の2万1882頭と増加し、乾乳牛は6.3%減の3374頭であった。育成牛（自家・外部預託含む）の保有率は、0.8%減少し29.8%となった。

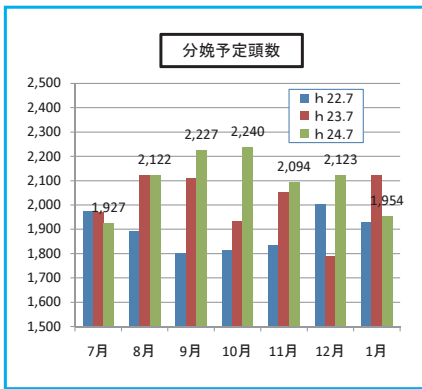


3 分娩頭数について

月別分娩予定頭数は7.8月は前年を若干下回るものの、9.12月の4ヶ月間は前年を大きく上回り、前年調査に比べ798頭増加し不需用期の乳量が増加する見込みである。ただ夏場の分娩も相当数あり、分娩事故が心配されることから暑熱対策及び周産期管理の徹底が必要となる。

下期の分娩頭数が前年より確保されることから、秋口以降の生乳生産も堅調であると見込まれる。

また、品種別分娩状況は、ホルスタイン種48.1%と前年の49.1%並みであるが、交雑種は45%と前年の42.8%から2.2%増加し、和牛ETについては6.9%と前年並みとなりおり全体では大きな動きはなかった。



乳牛飼養動態調査表

(平成24年7月1日現在)

| 支所別 | 調査年月 | 出荷者数 | 飼養頭数 | | | | | | | | 1戸平均飼養頭数 | 繁殖和牛経産牛頭数 | 月別分娩予定頭数 (H23.7は実績頭数) | | | | | | | | |
|--------|-------------|------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|----------|-----------|-----------------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|----|
| | | | 経産牛 | | | 自家育成牛 | | 外部預託牛 | | | | | 合計 | H24.7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | H25.1月 | 合計 |
| | | | 搾乳 | 乾乳 | 小計 | 初妊 | 未種付 | 初妊牛 | 未種付 | 合計 | | | | | | | | | | | |
| 那須高原支所 | H24.7 (構成比) | 327 | 13,155 | 2,059 | 15,214 | 1,649 | 3,598 | 538 | 1,020 | 22,019 | 67.3 | 593 | 1,162 | 1,235 | 1,238 | 1,277 | 1,182 | 1,300 | 1,186 | 8,580 | |
| | H23.7 (構成比) | 331 | 12,769 | 2,053 | 14,822 | 1,850 | 3,468 | 478 | 1,212 | 21,830 | 66.0 | 556 | 1,193 | 1,257 | 1,178 | 1,117 | 1,197 | 1,060 | 1,224 | 8,226 | |
| | 増減 | ▲4 | 386 | 6 | 392 | ▲201 | 130 | 60 | ▲192 | 189 | 1.4 | 37 | ▲31 | ▲22 | 60 | 160 | ▲15 | 240 | ▲38 | 354 | |
| 宇都宮支所 | H24.7 (構成比) | 92 | 3,166 | 516 | 3,682 | 543 | 1,085 | 115 | 253 | 5,678 | 61.7 | 139 | 286 | 323 | 387 | 355 | 343 | 316 | 295 | 2,305 | |
| | H23.7 (構成比) | 93 | 3,031 | 550 | 3,581 | 607 | 1,020 | 91 | 304 | 5,603 | 60.2 | 105 | 291 | 315 | 364 | 303 | 291 | 296 | 290 | 2,150 | |
| | 増減 | ▲1 | 135 | ▲34 | 101 | ▲64 | 65 | 24 | ▲51 | 75 | 1.5 | 34 | ▲5 | 8 | 23 | 52 | 52 | 20 | 5 | 155 | |
| 県南支所 | H24.7 (構成比) | 103 | 5,561 | 799 | 6,360 | 599 | 966 | 119 | 245 | 8,289 | 80.5 | 31 | 479 | 564 | 602 | 608 | 569 | 507 | 473 | 3,802 | |
| | H23.7 (構成比) | 105 | 5,202 | 998 | 6,200 | 512 | 905 | 81 | 313 | 8,011 | 76.3 | 214 | 486 | 552 | 570 | 513 | 565 | 432 | 604 | 3,722 | |
| | 増減 | ▲2 | 359 | ▲199 | 160 | 87 | 61 | 38 | ▲68 | 278 | 4.2 | ▲183 | ▲7 | 12 | 32 | 95 | 4 | 75 | ▲131 | 80 | |
| 小計 | H24.7 (構成比) | 522 | 21,882 | 3,374 | 25,256 | 2,791 | 5,649 | 772 | 1,518 | 35,986 | 68.9 | 763 | 1,927 | 2,122 | 2,227 | 2,240 | 2,094 | 2,123 | 1,954 | 14,687 | |
| | H23.7 (構成比) | 529 | 21,002 | 3,601 | 24,603 | 2,969 | 5,393 | 650 | 1,829 | 35,444 | 67.0 | 875 | 1,970 | 2,124 | 2,112 | 1,933 | 2,053 | 1,788 | 2,118 | 14,098 | |
| | 増減 | ▲7 | 880 | ▲227 | 653 | ▲178 | 256 | 122 | ▲311 | 542 | 1.9 | ▲112 | ▲43 | ▲2 | 115 | 307 | 41 | 335 | ▲164 | 589 | |
| *1 団体 | H24.7 (構成比) | 4 | 75 | 50 | 125 | 27 | 46 | 0 | 0 | 198 | 49.5 | 24 | 7 | 9 | 11 | 10 | 9 | 6 | 7 | 59 | |
| | H23.7 (構成比) | 4 | 61 | 47 | 108 | 27 | 53 | 0 | 0 | 188 | 47.0 | 21 | 12 | 6 | 11 | 5 | 3 | 3 | 7 | 47 | |
| | 増減 | 0 | 14 | 3 | 17 | 0 | ▲7 | 0 | 0 | 10 | 2.5 | 3 | ▲5 | 3 | 0 | 5 | 6 | 3 | 0 | 12 | |
| 合計 | H24.7 (構成比) | 526 | 21,957 | 3,424 | 25,381 | 2,818 | 5,695 | 772 | 1,518 | 36,184 | 68.8 | 787 | 1,934 | 2,131 | 2,238 | 2,250 | 2,103 | 2,129 | 1,961 | 14,746 | |
| | H23.7 (構成比) | 533 | 21,063 | 3,648 | 24,711 | 2,996 | 5,446 | 650 | 1,829 | 35,632 | 66.9 | 896 | 1,982 | 2,130 | 2,123 | 1,938 | 2,056 | 1,791 | 2,125 | 14,145 | |
| | 増減 | ▲7 | 894 | ▲224 | 670 | ▲178 | 249 | 122 | ▲311 | 552 | 1.9 | ▲109 | ▲48 | 1 | 115 | 312 | 47 | 338 | ▲164 | 601 | |

※1 H23.7、H24.7の団体件数は、高校2校、大学1校、栃木県畜産酪農研究センター1ヵ所



理事会だより

5月度理事会（5月30日）

報告事項

- (一) 組合員加入について
- (二) 業務経過報告について
- (三) 組合資金貸付について
- (四) 組合プール乳価について
- (五) 関東生乳販連情報について

協議事項

- (一) 4月度事業実績について
- (二) 平成23年度乳質共励会表彰について
- (三) 平成23年度生産現場の環境整備・美化コンクール表彰について
- (四) 平成23年度事業実績について
- (五) 剰余金処分案について
- (六) 自己資本造成計画について
- (七) ㈱酪農とちぎアグリサポーターの設立に係る発起人及び出資について
- (八) 子会社管理規程の設定について
- (九) 外部団体等の役員改選について

6月度理事会（6月26日）

報告事項

- (一) 組合員加入について

協議事項

- (一) 業務経過報告について
- (二) 組合資金貸付について
- (三) 組合プール乳価について
- (四) 関東生乳販連情報について
- (一) 5月度事業実績について
- (二) 環境省除染対策に係る委託契約の締結について
- (三) 平成24年産永年牧草及び給与前検査の利用自粛・給与制限に伴う代替粗飼料の購入に係る負担軽減支援策について
- (四) 外部団体等の役員改選について
- (五) 夏季手当の支給について
- (六) 役員研修旅行について

7月度理事会（7月30日）

報告事項

- (一) 組合員加入について
- (二) 業務経過報告について
- (三) 組合資金貸付について
- (四) 組合プール乳価について
- (五) 乳牛飼養動態調査結果について
- (六) 夏季手当の支給について
- (七) 関東生乳販連情報について

協議事項

- (一) 6月度及び第1四半期事業実績について
- (二) 固定資産取得計画に基づくPC・複合機等の取得について
- (三) 那須高原CSプレートクーラーの取得及びオーバーホールについて
- (四) ふれあい牧場車両運搬具の取得について
- (五) 乳代精算に関わる「販売費用」控除単価の変更について
- (六) 役員定数等検討協議会について

お知らせ

栃木県酪農フェア2012

平成24年10月13日（土）
栃木県畜産酪農研究センターにて開催されます。

第16回関東地区ホルスタイン共進会

平成24年11月10日（土）・11日（日）
栃木県畜産酪農研究センターにて開催されます。



牛魂碑供養

牛魂碑供養

7月度理事会終了後に、ふれあい牧場乳牛慰霊碑前にて、理事会出席役員参列のもと牛魂碑供養を行いました。

H24.7月度 ホクレン初妊牛市場成績 [単位：千円（税込）]

| 市場名 | 開催日 | 出場頭数 | 成立頭数 | 取引率 | 平均価格 | (そのうちET牛) | | |
|------|-------|-------|-------|-------|------|-----------|------|------|
| | | | | | | 出場頭数 | 成立頭数 | 平均価格 |
| 十勝 | 7月4日 | 880 | 687 | 78.1% | 489 | 49 | 44 | 659 |
| 北見 | 7月5日 | 322 | 223 | 69.3% | 455 | 2 | 1 | 559 |
| 南北海道 | 7月6日 | 99 | 74 | 74.7% | 421 | 3 | 1 | 521 |
| 釧路 | 7月11日 | 283 | 179 | 63.3% | 479 | 4 | 3 | 583 |
| 根室 | 7月12日 | 421 | 291 | 69.1% | 472 | 26 | 19 | 645 |
| 豊富 | 7月13日 | 325 | 72 | 22.2% | 432 | 1 | 1 | 532 |
| 合計 | | 2,330 | 1,526 | 65.5% | 473 | 85 | 69 | 647 |
| 前月 | | 2,136 | 1,257 | 58.8% | 485 | 83 | 68 | 630 |
| 前年同月 | | 2,288 | 1,600 | 69.9% | 490 | 162 | 120 | 596 |

暑い時期の輸送となるため、府県からの購買は少なかつた模様です。お盆明けからの乳牛市場では、秋分娩牛が出回り始めます。導入をお考えの方は、支所業務推進課までお問合せ下さい。

H24.7-8月度 県内家畜市場成績 [単位：円（税込）]

| 市場名 | 種別 | 出場頭数 | 成立頭数 | 平均体重 | 最高 | 最低 | 平均 | 前回比 |
|------|---------|------|------|------|---------|---------|---------|---------|
| 西那須野 | ホルスタイン雄 | 116 | 115 | 62 | 60,900 | 110 | 38,745 | ▲2,241 |
| | F1雄 | 78 | 78 | 57 | 106,350 | 46,200 | 131,358 | ▲7,767 |
| | F1雌 | 67 | 66 | 52 | 107,100 | 13,650 | 71,018 | ▲9,644 |
| 館林 | ホルスタイン雄 | 9 | 9 | 75 | 56,700 | 27,300 | 46,317 | ▲7,758 |
| | F1雄 | 19 | 19 | 93 | 240,450 | 151,200 | 180,766 | ▲13,379 |
| | F1雌 | 18 | 17 | 91 | 168,000 | 98,700 | 128,100 | ▲11,222 |

枝肉相場が持ち直してきたことにより、6月中旬までは比較的高値で推移していましたが、それ以降は各市場とも下げ基調に転じている模様です。

